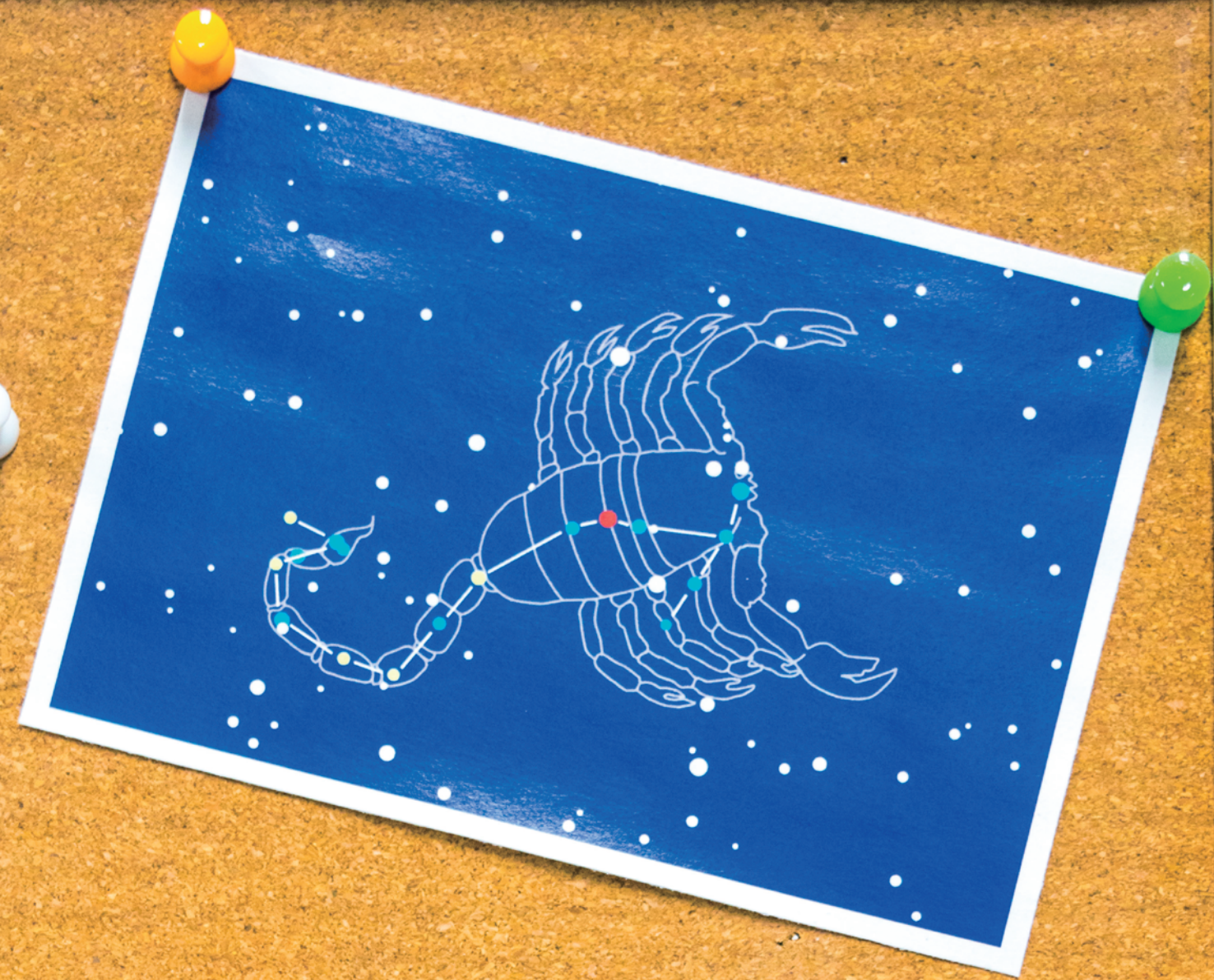


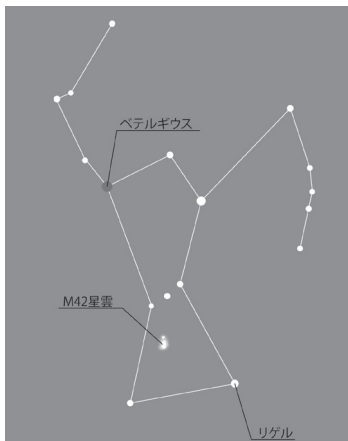
夜空を見上げる冬のひととき
オリオン座を深く知る

正しく叱ろう
怒りと向き合ってより良い生活を

日本と世界との架け橋
【連載特集】各学類・専門学群を知ろう！

全代会と学生・大学のこれから
活動報告





オリオン座の星の構成

「オリオン座にはベテルギウス、リゲルと呼ばれる一等星がある。冬の南の空に赤く輝く星がベテルギウスだ。また、オリオンの腰のベルトに見立てられる三つの星が並んでおり、明るく形が整っていて見つけやすい」とつくばエキスポセンター職員むとうのぶひろの武藤暢宏さんは話す。

オリオン座の概要

冬の夜空には、整列した三つ星と、その周りを囲む四つの明るい星が見える。「冬の主役」と呼ばれるオリオン座だ。オリオン座は、誰もがその形を思い出すことができるであろう有名な星座だ。さそり座に刺さって死んでしまったため、さそり座と同じ季節にオリオン座が昇ることはないという有名な逸話があるが、その他にも、多くの神話でオリオンが登場する。なぜ、オリオン座はそれほど有名になったのだろうか。



オリオン座の見つけ方について話す武藤さん

オリオン座の中で最も注目してほしいのは、M42という肉眼でも見える大きな星雲だという。腰のベルトに見立てられる三つ星の下に、縦に並んだ小三つ星と呼ばれる三つの星がある。その中央にある星を包むようにM42が存在している。M42では未だに星が誕生し続けており、望遠鏡では緑がかった光を観測することができる。また、長時間撮影すると、淡いピンク色の光が観測できる。

オリオン座の見頃は、11月から3月頃であり、つくばでは4月頃まで見ることができる。冬は空気が澄んでいるため、天体観測には適しているという。「冬の21時頃、南の空を見上げると腰の三つ星はすぐに見つかる。そこから視界を広げていくとベテルギウスやリゲルといった一等星を見つけることができるはずだ。そうすると、和楽器の鼓の形が分かるだろう」と武藤さんは話す。



オリオン座の神話について解説する秋山教授

神話と空

荒々しいギリシャの冬に輝いていたことからオリオンという強い人物が連想されたことで、オリオン座が生まれたという説がある。明け方に沈むことから「暁の女神エーオース」に見初められた逸話や、冬の間は見えないが他の季節は見えなくなることからオリオンが一時盲目となる逸話などがある。「オリオンは星座のイメージが強い。天空でのイメージから出来上がった逸話も多いだろう」と秋山学教授（人文社会系）は語る。

オリオンに関する逸話には、同じ人物を扱っていても複数の種類がある場合がある。アルテミスという女神との逸話を下に示すが、その他に、オリオンを愛しすぎて辛くなり星座にしてしまうパターンや、オリオンと他の女性との関係を妬み殺してしまうパターンがある。

オリオンの神話

優秀な狩人だったオリオンはある日、鹿を狩りにキオス島にやって来た。そこでオリオンはキオス島の王オイノピオンの娘、メロペーに恋をし、オイノピオンにメロペーとの結婚を承諾してもらえよう頼み込む。しかし、オイノピオンはオリオンとメロペーが結婚することを快く思わなかった。そこでオイノピオンはオリオンに酒を飲ませ、眠っている間に目を潰してしまう。メロペーへの恋心も実ることはなかった。

盲目になったオリオンはレモノス島に辿り着く。鍛冶場の神ヘーパイスと出会い、太陽の神ヘリオスを紹介される。オリオンはヘリオスを訪れ、ヘリオスに目を向けると視力がたちまち回復した。

その後オリオンはクレタ島で月と狩りの女神アルテミスに出会う。二人は一緒に狩りに行くうちに次第に親密になっていく。しかしそれを良しとしなかったアルテミスの兄アポロンは二人を引き離すため、アルテミスが誤ってオリオンを矢で射るように仕向ける。兄の策略にはまったアルテミスはオリオンを自らの手で殺してしまうが、悲しんだアルテミスは大神ゼウスにオリオンを星座にしてもらえるよう頼んだ。そうして星座となったオリオンは星座と月という関係で、アルテミスと天空で会えるようになったという。

※オリオンにまつわる神話の一説を掲載

オリオンと超新星爆発

宇宙空間には水素分子や一酸化炭素分子などから構成される分子雲がある。分子雲の中でも特に密度が高い場所は重力で収縮していき、星が誕生する。その後、太陽の約10倍以上の質量を持った星は、最終的に超新星爆発という現象を起こして、中性子星やブラックホールと呼ばれる高密度の天体が残る。地球の近傍にある星が超新星爆発を起こすと、日中でも輝いて見える可能性もあるという。最近では、1987年の超新星爆発が肉眼で観測されている。また、肉眼では観測できないが、地球がある天の川銀河以外の銀河も含めると頻繁に起きているのだという。

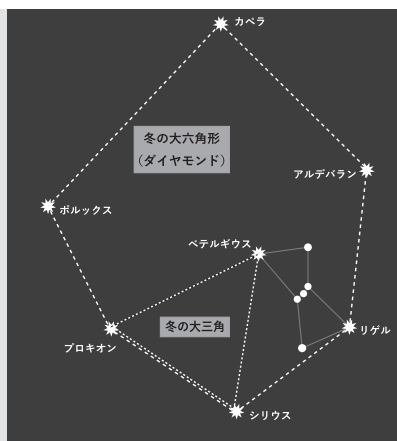
オリオン座を構成する星の1つであるベテルギウスは、年老いた重い星であり、将来、超新星爆発を起こすと考えられている。しかし、6400光年離れた場所にあるため、地球で観測できるのは実際に爆発してから6400年後となる。



お話を伺った新田冬夢助教

冬の星図

冬の大三角は、おおいて座シリウス、こいぬ座プロキオン、オリオン座ベテルギウスで構成される。加えて、冬の六角形も存在するという。おおいて座シリウス、こいぬ座プロキオン、ふたご座ポルクス、ぎょしゃ座カペラ、おうし座アルデバラン、オリオン座リゲルで構成される。整った六角形をしており、別名「冬のダイヤモンド」とも呼ばれる。



冬の三角と冬の六角形

星座が動く

星座を構成する星は同じ平面上にあるわけではなく、実際は地球からの距離が異なっている。また、星はそれぞれ固有の動きをしており位置も変化している。そのため、長い年月が経てば星の位置が変わり、星座の形も変わってくるという。



「無性にイライラする」「なんでそんなに怒ってんの？」このような状況を経験したことはないだろうか。本特集では、高校教師の現場の声や、「怒り」を心理学的観点から研究している本学の研究者の考え方を聞くことで、「怒る」と「叱る」に関わる問題の解決方法を探っていく。また、怒りの原理や対処方法についても解説する。読者の今後に役立てば。

(編集人：鈴見祐悟、十川澄)

「怒る」と「叱る」

そもそも「怒る」と「叱る」の言葉の意味の違いは何であろうか。広辞苑第六版には次のようにある。怒る「自五」①いかる。腹を立てる。

②叱る。

叱る「他五」(目下の人に対して)声を荒げて欠点を咎める。
咎め戒める。

「怒る」という言葉は感情としての意味で多用され、「叱る」は相手のことを理性に従って戒めるような意味で用いられる。また、自らの行動なのか、他者への働きかけなのかという違いもある。このように「怒る」と「叱る」は定義上区別されていたが、現在は混同されるようになっていく。

教育の現場から

筑波大学体育専門学群を卒業後、兵庫県の高校で教壇に立っている山村春樹さんにお話を伺った。

「怒る」と「叱る」の違いは、相手に伝えようとする意識の差だという。例えば、何か悪いことをした生徒がいたとき、教師はその生徒を叱ることで悪いことをした事実を受け入れさせ、言動を改めるように心掛けさせる必要がある。「生徒に確実に反省してもらうために、『怒る』と『叱る』の分別をつけるように普段から心がけている。それでも常に適切に伝わるわけではない」と山村さんは話す。自分では「叱っている」つもりでも、相手からは「怒っているだけ」のように見えている可能性があるという。

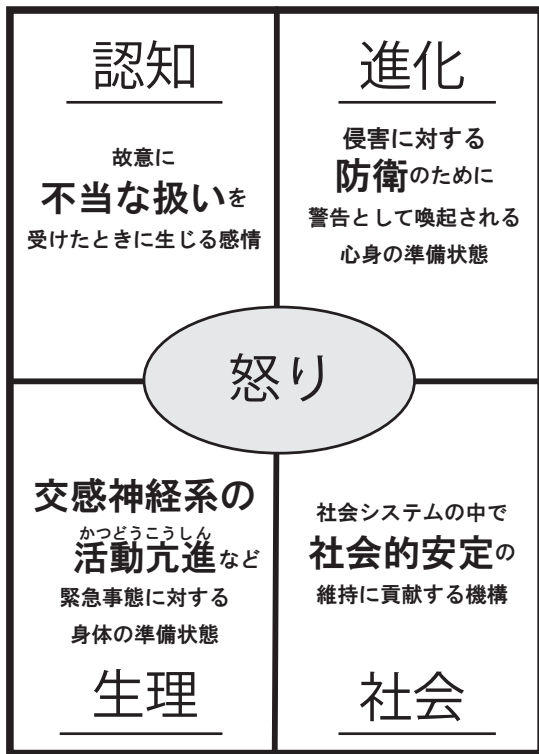
山村さんは相手を叱るとき、論点を明確にする必要があると考える。何よりも本人が納得することを大切にするためだ。「相手と認識の違いを把握し、できるだけ近づけようと努力している。このときに、話をすり替えたり相手を否定したりしないように注意する必要がある」と山村さんは話す。また、相手を叱るときには、失敗に目を向けさせることが、悪いことは悪いと理解させることが

大切であり、これらには殊にこだわっているという。

山村さんが叱るときに意識していることが二つある。一つは、相手をよく見ることだ。相手に真摯な態度を見せると同時に、相手の目や態度を観察することで相手の意思や状況を把握するためだという。もう一つは人によって方法を変えることだ。ある生徒に対しては論理的に説得するが、一方で別の生徒には「なんで？」という曖昧な質問ではなく、「何が原因だった？」と「どうしたらよかった？」といった具体的な質問に変える。「方法を変えつつ相手の表情を見て、納得しているか確認することは教育者として大切だ」と山村さんは語る。



筑波大学生時代の山村さん



怒りの原理

そもそも怒りとはどのような感情だろうか。また、なぜ人は怒りを感じるのだろうか。

湯川進太郎准教授（人間系）は編著書「怒りの心理学」で、「怒り」を「自己もしくは社会への、不当なもしくは故意による、物理的もしくは心理的な侵害に対する、自己防衛もしくは社会維持のための心身の準備状態」と定義している。

怒りという感情は、左図の四つの視点から認識できる。

怒りはどのようなときに生じるか

怒りの要因には大きく分けて二つあるという。一つは物理的あるいは心理的な被害に遭ったという感覚だ。湯川准教授が行った調査では、物理的な被害よりも心理的な被害の方が怒りの要因となることが圧倒的に多いことが分かっている。もう一つは加害者の責任性だ。「他者のせいで自分が嫌な思いをした」という認識が怒りにつながるという。

怒りの要因は個人の認識によるところが大きい。怒りの感じやすさには個人差がある。

怒りと心身の健康との関係

怒りによる健康被害の可能性として挙げられるのは心臓病だ。高血圧を伴う心臓病の患者には、生じた怒りの程度が強い、怒りを頻繁に感じやすい、怒りを表に出して表現するという傾向がある。

また、がんも怒りによる健康被害の可能性として挙げられる。がん患者に多く見られるのが、協調性が高い、感情をあまり表に出さないなどの特徴だ。周囲との協調を考えて、怒りの表出を抑える人が多いのではないかと示唆されている。

怒りは心にも関連しているという。うつ病の経過の中で、アンガーアタックという突発的で強烈な自己制御できない怒りが生じるケースがある。また精神分析の理論では、本来他者に向けられるべき怒りの攻撃性が自己に向けられたとき、抑うつ感情が発生するという仮説もある。

このように、怒りには抑うつを生み出す過程に関わっているという示唆もあるという。

では怒りを上手く制御するにはどうすれば良いか。効果的なコントロール方法を下の図を用いて紹介する。（出典：怒りの心理学／湯川進太郎／有斐閣）

： 筆記法 ：

①いつやるの？

怒り感情やトラウマティックな経験によって生じた感情や思考を、他人に開示することなく抑えているとき。
→ 抑制による認知的かつ生理的な負荷がかかっている状態

②どうしてやるの？

抑制された感情や思考を開示させることで、負荷を解消し、健康を増進させるため。

③どうやってやるの？

- ・日常的な感情経験を習慣的かつ継続的に筆記する
- ・日記習慣にて、怒り感情を筆記する

④どんな効果があるの？

怒りは高揚系の感情なので、まずは書き出して自身の気持ちを客観的に見ることで、気持ちを落ち着かせることができる。日常的な怒りの感情を溜めずに、日々処理することができる。

： 呼吸法 ：

①いつやるの？

怒りによるストレスで以下の症状になった場合。
・血圧や心拍数の増加 ・多量の発汗 ・筋肉の緊張
→ 呼吸のペースが早く、呼吸が浅い状態

②どうしてやるの？

呼吸をコントロールすることで、心理的・生理的ストレス状態を解消するため。

③どうやってやるの？

- ・呼吸のペースを遅くする（1分あたり12回以下）
- ・腹式呼吸 ・吸う時間より吐く時間を長くする

④どんな効果があるの？

人物の性格に由来する怒りの改善はできないが、そのときの怒りの状態を和らげることができる。リラクゼーションのみを用いた八つの研究では70%の人に有効ということが報告されている。

日本と世界との架け橋

【連載特集】各学類・専門学群を知ろう！



普段何気なく使っている日本語、何気ない日常生活について深く考える人は少ないだろう。日本語はどのように発達したのか、日本の魅力はなんだろうか。日本語・日本文化学類は、そんな日常を考え直す学類だ。日本の魅力を再発見し、海外へと発信していく日本語・日本文化学類について特集する。(写真はスロベニアの風景) (編集人: 小島七海)

日本語・日本文化学類 の特色

日本語・日本文化学類では、日本語や日本文化をグローバルな問題意識の中で考え、それを様々な方法を用いて海外に発信できる人材の育成を行っている。人文学類や比較文化学類と異なるのは、日本語教育を中核に常に発信していることを意識しながら、日本語と日本文化を多文化的な背景の中で見つめ直すことを推し進めていることだ。「内側からの視点だけでは分からない問題意識を持って日本語と日本文化を捉え直し、それぞれの視点からステレオタイプではない日本の多様な魅力を内外に発信して欲しい」と竹沢幸一学類長(人文社会系)は期待している。

日本語・日本文化学類では、異文化交流が盛んだ。国内・国外での実習が多く行われ、より充実した留学生のチューター制度が整備されている。「日本語や日本文化を客観的に見るための目を持つには、実際に異言語・異文化のバックグラウンドを持つ人に触れることが一番だ。そのための機会を多く用意している」と竹沢学類長は話す。

また、日本語・日本文化学類では、多くの留学生を受け入れており、日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入機関となっている。日研生とは、自国で日本語や日本文化に関する分野を専攻している学生を対象とした国費留学生だ。1年間の留学の最後には修了論文を執筆する。「日研生も含め、日本語・日本文化短期留学生プログラムやJapan Expertプログラムの学生など、50人近い留

学生が在学している。留学生がいると、日本にいながらでも異文化に触れることができる。教育環境の多文化化を推し進めていきたい」と竹沢学類長は語る。

日本語・日本文化学類 のカリキュラム

日本語・日本文化学類には、現在、一般学生用の日本語・日本文化学専攻に加え、Japan Expertプログラム留学生のための日本語教師養成専攻がある。どちらの専攻とも、まず、日本語分野と文化分野の科目をバランスよく学んだ上で、3年次後半から専門性を絞り込んで卒業論文(卒業研究)に取り組むようにデザインされている。

実践的な教育にも力を入れており、国内外での実習や、インターンシップの他、より実践力を高めるために、「修了プログラム」「日本語教育力強化プログラム」と「異文化理解力強化プログラム」を設定し、学生に実践的な授業にも積極的に参加することを推奨している。



学類の特色を語る竹沢学類長

異文化を実際に体験する

スロベニア実習

日本語・日本文化学類では、異文化理解や国際交流のために海外実習を開講している。海外で学ぶ学生と交流することで、日本を客観的に見つめ直すことを目的としている。スロベニア実習はその中の一つだ。スロベニアにあるリュブリャナ大学を訪ね、現地で日本語を学ぶ学生との学術交流やプレゼンテーションを通して、日本文化の発信のあり方を学ぶ。「日本の文化の紹介をしたり、簡単な日本語を教えたりした。また、日本語を学んでいる学生に日本語でスロベニア語を教えてもらった」と太田涼子さん（日本語・日本文化学類2年）



スロベニアの学生による日本文化体験の様子

は話す。現地の街で簡単なやり取りができるようになったという。

スロベニアの学生は積極的に日本語で話しかけてくれたという。「日本に来ている留学生と話すのは大きく違った。日本に対する前提知識がないため、日本語で話すときは簡単な単語や構文を使うことを意識した。また、和語を多めに使って話した」と太田さんは振り返る。この実習を通して、海外の人だけでなく、日本人にもわかりやすく話そうと意識するようになったという。



スロベニアの位置



スロベニア実習を振り返る太田さん

コラム

留学生の手助けとなる

つくろぺ

「つくろぺ」は、筑波大学の留学生向けにサークルの情報を紹介するホームページを運営する団体だ。現在、筑波大学生7人で運営している。「つくろぺ」は2016年度「TAC」の企画として実現した。留学生向けにサークルを紹介する機会が少ないことがきっかけだったという。留学生が興味を持ちそうなサークルを実際に訪れ、留学生を受け入れられるかを確認してからサークルの紹介を掲載する。「日本語をある程度理解できる留学生でも、サークルの仕組みや、サークル特有の用語はわからない人が多い。サークルに入ることへの障壁を少しでも取り除きたい」と「つくろぺ」代表の中嶋さくらさん（日本語・日本文化学類4年）は語る。

ホームページは英語、日本語、「やさしい



「つくろぺ」代表の中嶋さん

日本語」の3通りで書かれている。「上級の文法や漢字がわからない留学生は多い。そのため、文を短く、漢字を減らした『やさしい日本語』で紹介文を書いている」と中嶋さんは話す。

留学生向けのホームページを作る上で多くの苦労があったという。「紹介したいサークルがあっても、そのサークルの協力がなければ掲載することができない。また、どのように広報すれば多くの留学生の目に触れるかということも悩んだ」と中嶋さんは振り返る。

2017年度からは、つくば市と連携して、つくば市のイベント情報を英語に翻訳して掲載している。多くの留学生がイベントに参加できるようにするための試みだ。「筑波大学には多くの留学生がいるが、日本人学生との交流の場が少ない。この活動を通して、より多くの留学生が日本人と交流できる場を提供していきたい」と中嶋さんは話す。

(<http://tsukurope.wixsite.com/tsukurope>)



「つくろぺ」のホームページ

全代会と学生・大学のこれから

全学学類・専門学群代表者会議は学生から選出され、学内の問題を大学と話し合い、解決している。しかし全代会と学生、全代会と大学の関係は時代とともに移り変わっている。それらの関係について全代会に関わる人たちに話を伺い、これからの全代会の在り方について考えていく。

(編集人:石川貴嗣)

全代会と学生・大学の関係

全学学類・専門学群代表者会議（全代会）の構成員は全員が筑波大学の学群生である。その多くはクラス代表者会議にて選出された「座長団」であるが、「専門委員」と呼ばれる有志の委員もいる。

学則によると、全代会は「筑波大学における学生生活、教育活動等に関する事項を学生が討議し、学生の意向を反映させるための自主的に運営される学生組織」とされている。そのため全代会は学生の感じている不満や疑問を大学と話し合い、解決していくために、それらの収集や実態調査を行っている。

全代会と大学は上下関係ではなく、相互に協力する関係である。全代会は学生の不満や疑問をまとめ、解決に向けて大学と話し合いを行う。一方で大学は、学生に周知したい内容を全代会に広報してもらうように依頼をしたり、学生側の意見を全代会に確認したりしている。

全代会と関係の深い大学組織には学生生活支援室と学生生活課がある。このうち学生生活支援室は教員から構成され、学生生活課は職員から構成されている。全代会の現状認識やこれからの全代会に関してこれらの組織および全代会議長に話を聞いた。

鈴見議長の考え

「全代会構成員は学生から選出されているが、多くの学生には全代会構成員は大学職員のように感じられているのではないだろうか」と鈴見祐悟^{すずみゆうご}全代会議長（物理学類3年）は語る。全代会は学生の疑問や不満を受けて、学生が解決に当たる組織だ。しかし多くの学生には、全代会は大学の下部組織のように捉えられているのではないかとのことだ。これが全代会の広報力や業務内容の認知度の低さにつながっているのではないかと。

さらに鈴見議長は、この現状が多くの全代会構成員が感じている、仕事に関する承認欲求が満たされないことにつながっているのではないかと指摘する。この承認欲求の不満が引き金となり、一部の構成員が全代会に参加する意義を見出せず、結果的に会議や委員会の欠席につながっているのではないかと考えているという。

こうした現状を踏まえ、将来的な全代会と学生の在り方について、鈴見議長は「学生の全代会に対する見方が変わらない限り、こうしたよくない状況に変化はない。学生に向けて、全代会がもっと認知されるように、広報活動を行っていくことは重要だ」と語る。

全代会と大学の関係性の現状について、鈴見議長は「学則上の関係性は互いに十分認識していると思うが、実際は全代会が大学の下についているようなイメージを受ける」と話

す。鈴見議長がそう感じる理由は主に2点あるという。1点は全代会に対して、大学が過度に意見してくる場面があったということだ。もう1点は、自転車の安全講習会など、いくつかの事柄に関して、大学が全代会構成員に参加を義務付けているということだ。全代会構成員は課外の活動として全代会を運営しているのであり、大学に雇用されているわけではない。それにもかかわらず、そうした行事に参加を強制されるのは不当ではないかというのだ。

一方で、全代会がより注力すべき課題もあるという。ここ数年、全代会で議論された内容が、大学との交渉の末に改善されたという例が少ない。これは全代会が年度をまたいで活動しないことを原則とする単年度組織であることが問題だと鈴見議長は話す。「問題意識や過去の議論の経過を次の代に着実につなぎ、大学との時間のかかる交渉を行っていくことが、今の全代会の課題だ。残りの任期をかけてそれを行っていきたい」と鈴見議長は語る。

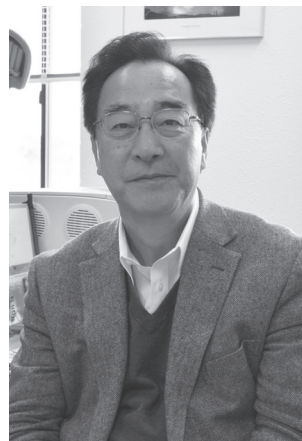


全代会の問題点を話す鈴見議長



全代会を支援したいと谷本さん

学生生活課は、学生生活に関する総合的な学生支援を行うことを目的とする組織だ。学生の主な手続きは、所属のエリア支援室が担当となるが、学研災の証明、学生証の再交付、学生宿舎の手続きなどの業務を一元管理し、学生個人向けの支援や、全代会および学生団体の対応、物品の貸し出しなどの学生団体等



全代会の大切さを語る田中室長

「学生生活支援室では、学群生からの要望や苦情をクラス連絡会や全代会から受け、その問題解決に向けた対応策を検討している」と田中博士。学生生活支援室長（計算科学研究センター）は話す。こうした学生生活支援室の一連の業務において、全代会を通じた学生からの意見は大切なのだという。

田中室長は全代会と学生の関係について、

昔のように、学生をまとめる組織となつてほしいという。開学当時は、大学による学生生活動への締め付けが強かったため、大学に対する学生の反発も強かった。そのため、学生たちの代表として大学と協議することが全代会の重要な役割となつていった。現在はこの頃と比べて学生と大学の軋轢は小さくなつていく。この現状を踏まえ、田中室長は、「全代会の果たすべき役割は『全学生の総意』として大学への要望を取りまとめること。大きな問題がないときはさほど注目されなくとも、いざ問題が起こった時に、全代会はなくてはならない重要な組織だ」と語る。

全代会と大学は「学長と全代会構成員との茶話会」や「副学長等と全代会構成員との懇談会」のような正式な会議の場で情報交換を

に向けた支援も行っている。

学生生活課で全代会を担当している谷本昌弘さん（学生生活課職員）は、全代会と学生の関係について「全代会と座長団との関わりが大きいと感じる」と話す。学生の問題意識が、座長団を介して全代会に届けられ、また、学生全体に発信すべき内容を全代会から座長団を介して全学生に届けられることが、全代会と学生との望ましい関係だという。しかし、現状、座長団が全代会に出席していない学類や、座長団が学類全体に情報を伝えるためのクラス代表者会議が開催されていない学類がいくつも存在するという全代会からの話から、連絡体制の充実が重要であるという。

「大学から学生への直接的な情報提供には限

行ってきた。田中室長は、全代会と大学とがより多くの情報交換の機会を設けるべきと考えている。現在、全代会の代表者なしに行われている学生活動の主要な会議にも、今後は全代会から代表者を送り出し、学生の代表としての意見を大学運営に反映してもらいたいと考えているという。

また、2017年7月には全代会による試行として、第1回「学長との懇談会」が開催された。この会は自由参加となっており、学群生や大学院生ならだれでも参加できる。「全代会主催で個々の学生が学長に対して直接意見を述べることでできる機会を設けるのはよいことだ。今後もこのような会を企画し、内容の充実を図って欲しい」と田中室長は語る。

界がある。やはり全代会および座長団を通じた学生への情報提供が大切だと思う」と谷本さんは語る。

また、近年改善要望が出ても、その後うまく解決に結びつかず、未解決のままになっている案件があるという全代会からの話については、谷本さんは全代会の単年度組織としての弊害を指摘する。

「当年度で未解決の問題があれば、次年度でも継続して調査を行い、議決を採ったり、議論を行ったりしてほしい。また、全代会の中で情報を共有し、委員会間で連携してもらいたい。学生生活課としては、大学と学生とのやり取りはぜひとも助けていきたい」と谷本さんは話す。

全代会と学生

全代会と大学

あるべき姿を求めて

全代会が誕生して41年が経過し、その大学における役割は大きく変貌してきた。現状、発足当初のような全代会がなくてはならない大きな問題は発生していないため、全代会は細かな学生からの要望を大学と話し合い、解決を行う組織となつている。一方、全代会は「全学生の総意」を決議できる唯一の学生組織であり、必要となつた時に簡単に立ち上げられるものではないため、その役目を終えることができない。

現在21年度の入試から大括り入試を採用すべく、入試制度の改革が行われており、17年度中にはその全容が確定する予定となつている。それに合わせて、現在のクラス制度をこれからも存続させるかに関する検討や、学類のない学生からどのように全代会に座長団を選出するかといった新システムの構築に関する話し合いが全代会と大学の間で行われている。こうした議論の中で今、全代会の在り方についても議論されている。全代会と学生、全代会と大学の関係を、よりよいものにしていきたいために、その業務を見直す機会に差し掛かっているのではないだろうか。

18日
10月
市長懇
22日
9月

全代会 活動報告

市長懇



学生に笑顔で話す市長

日時…9月22日(金)
場所…つくば市役所
出席…つくば市長、市の職員、
全代会の構成員、他

○実施内容

「つくば市長と筑波大学学生との懇談会(市長懇)」は、つくば市と筑波大生が交流する場だ。年に一度開催され、今回で5回目となる。今年度、学生は全代会の構成員の他、学園祭実行委員会、有志の学生などが参加した。市側からは、市長の他、副市長や筑波大学出身の職員が参加した。今年度は、市長が変わってからの初めての会だったため、去年と形式が変わった。市政に関心のある学生が多く参加し、学生からは、ミニつくば2階交流サロンの活用に関する課題や、街づくり全般に関する意見等が活発に寄せられた。市からは、市長からまちづくりのビジョンについてプレゼンテーションを行ったり、学園祭実行委員経験者の卒業生である職員が市職員の立場から学園祭に期待することなどを学生に伝えたりした。

「今年度は、参加人数自体は半分に減ったが、議論は例年に比べて熱く深いものになったと思う。筑波大生とつくば市が直接関わっている部分が議題に挙げられたので、有意義な会であったように感じた」と鈴見祐徳議長(物理学類3年)は話す。

第五回本会議

日時…10月18日(水) 18時30分
場所…5C216
出席…44人

●議題

平成29年度学園祭実行計画書
追加提出分に関する要請

承認…44
否認…0
保留…0

↓全会一致で可決

●議題について

第四回本会議で可決された「学園祭実行計画書」からの変更点や、追加事項が適切かどうか決を採った。



第五回本会議の様子

記事制作者より

気づいたら広報委員も3年目で引退の時期となっていました。1年の頃は、表紙の一部を手伝っていましたが、他のみんなが上手すぎてはばやらずになりました。3年目でそろそろ何かしたいということで、配付担当の仕事を始めました。皆さんの目に届きやすくなるよう努力しております。引き続き頑張ります。

【青野綾介】

専門委員として広報委員会に参加して、あつという間の引退です。個人的な仲間と過ごした時間は、宝物として筆箱に大事にしまっておきます。大学で理系に進むと決めたときに諦めた芸術活動を、また楽しむことが出来ました。またお会いしましょう。

【鈴木苑子】

表紙制作者より

溺れそうになりながら、ただがむしやらにもがいてきた3年間。幾度も自分の不器用さを呪ったけれど、それでも何とか走り切れた気がする。これから先は、道征く後輩たちの健闘と幸運を祈るのみ。

【石原琴子】

編集後記

10特集、23記事、9794文字。32人の仲間と作り上げたこの2年半の経験は、今後60年の人生の糧となるだろう。

【鈴見祐悟】

目の前が真っ暗になった。今まで途切れることの無いと思っていた道が無い。ついに足を止める時がきたのかと気づく。どれだけの足跡を刻み込む事ができただろう。いくら足跡を刻もうとも、光がなければそれを頼りにすることは出来ない。幸いなことに、先人たちが灯した沢山の灯りを頼りに歩き通すことができた。自分はその道の続きに灯りを灯すことが出来たのだろうか。それは後ろを追ってきている後輩たちにしか分からない。ただ、これだけは分かる。後輩たちはきっと更なる灯りを灯してくれるだろう。そんな期待を胸に、筆を置くことにする。

【小島七海】

BACK NUMBER



Campus No.213 2017/10/04

特集：みんなで「音」を楽しもう

世界の真理を見つめる物理学／全代会の2017年度全代会活動報告



Campus No.212 2017/04/06

特集：あなたを変える恋愛塾

はじめての人文／全代会概論
全代会活動報告

Campus No.211 2017/01/10

特集：絵本と子どもとの出会い

現実と仮定の境界線／ぐるっと紹介 地球学類
全代会活動報告

Campus No.210 2016/10/03

特集：よい朝はよい睡眠から

オリンピックから見る体専／全代会の2016年度全代会活動報告

STAFF

編集人	小島七海
発行人	石川貴嗣
表紙デザイン案	石原琴子
編集委員	青野綾介 石川貴嗣 石原琴子 岡崎那菜 小島七海 鈴木苑子 鈴見祐悟 十川澄 西堀涼香 原田賢志 森下裕貴 和田多香子

発行 全学学類・専門学群代表者会議
広報委員会



<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/>
zdk@stb.tsukuba.ac.jp

バックナンバーは全代会室横（1学食堂内）のボックスで配布しています。
ウェブ版『Campus』公開中 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/wiki/?Campus>

広報委員会では随時編集委員を募集しています。興味のある方は上記のメールアドレスまでご連絡ください。